

インターネットの常識？ 「情報モラル」とは、 一体何のこと？



インターネットは、大人だけではなく、子どもたちにとっても身近なものになりました。その一方で、子どもたちが、インターネット上での誹謗中傷やいじめに遭ったり、犯罪や違法・有害情報に触れたりすることなどが社会問題となっていることから、学校や家庭において、子どもたちの発達の段階に合わせた情報モラルを指導することが求められています。

「情報モラル」とは何？

情報モラルとは、「情報社会で適正に活動を行うための基になる考え方と態度」のことであり、情報モラルが身に付いているかどうかの判断に必要な要素には、「日常のモラル」と「仕組みの理解」が挙げられます。

(右図参照。)

「情報モラル」を理解するには

情報モラル教育は大事だとは思っていても、「何から手を付けたらよいかわからない」「進みが早くてついていけない」などと、自信が持てずにいる方も多いでしょう。でも実は、インターネットにかかわる問題の本質はほとんど変化しておらず、情報モラル教育に必要な要素は、右図にあるとおりそれほど特別なものではありません。

次号からは、「仕組みの理解」の中でも重要な、「公開性」「記録性」「信ぴょう性」「非対面コミュニケーション」について順次御紹介します。

情報モラルの判断に必要な要素

日常のモラル

- ルール・約束を守る。
- 人を思いやる。
- 正しいか確かめる。

仕組みの理解

インターネットの特性

- ・公開である【公開性】。
- ・情報が漏れる。
- ・信用できない情報がたくさんある【信ぴょう性】。
- ・記録が残る【記録性】。

心情的・身体的特性

- ・夢中になってやめられなくなる。
- ・対面ではなく伝わりにくい【非対面コミュニケーション】。
- ・不安になる。
- ・感情的になりやすい。

機器やサービスの特性

- ・夢中になりやめられなくなるサービスがある。
- ・いつでもどこでもつながることができる。
- ・サービスの提供側から様々な勧誘がある。
- ・無料であることをうたって利用を勧誘してくる。

参考：情報社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き（文部科学省）

御家庭での対応

インターネットの技術は日々進化していますが、インターネット上のコミュニケーションのトラブルの原因のひとつが「相手の理解不足」であることや、「ネットに依存する構造」がそれほど変化していないことから、情報モラルが身に付いているかどうかの判断に必要な要素は不変だともいえます。

お子様の発達の段階やインターネットの利用状況に合わせて、「日常のモラル」と「仕組みの理解」について、まずは家族で一緒に考える機会をもつことから始めましょう。